

次は、「脳のはたらきを目で見てもみよう」（川島隆太著）の書き出し部分です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

「脳のはたらきを目で見てもみよう」（東京書籍 新しい国語 一年）

P 2 L 1 「人間は考える葦である。」 人間は一本の葦にすぎない。」から

P 2 L 1 「脳の指令によって行っているのです。」 までの部分

―― 部 「わたしは」と「大きな要素です」との言葉の関係が不適切です。この文の内容を変えないように「要素です」の部分三文節以内で適切に書き直しましょう。

* 教科書本文を次のように変えた上での出題。

わたしはパスカルのいうように、「考える」ことができるというのがヒトを人たらしめるいちばん大きな要素です。

二 ―― 部 「ヒトを人たらしめる」とありますが、「ヒト」と「人」はどう使い分けられていますか。国語辞典の説明を参考に
して、「ヒト」「人」は・・・であるのに対し、「人」は～ という形で答えましょう。

国語辞典の説明：「～たらしめる」

本来そのものが持つべき姿、ありかた、性質、本質、本分を持った、そのものがあるべき状態にする

三 ―― 部 「喜びや悲しみ、楽しさや怒り」の感情のうち、あなたが最近テレビを見ていて抱いた感情はどれですか。

四つの感情の中から一つを選び、次の条件1から条件4にしたがって書きましょう。

条件1 見たテレビの内容とその時の感情について書くこと。

条件2 取り上げた感情の理由（なぜそういう感情を抱いたのかということ）について書くこと。

条件3 百二十字以上百六十字以内で書くこと。

条件4 原稿用紙の書き方にしたがって書くこと。

◎ 出題のねらい

- ・ 主語（主部）に対応させて述語（述部）を適切に書くことができる。（問題一）
- ・ 言語や言語に関する知識・技能を身につけ、文や文章の中で適切に用いることができる。（問題二・三）
- ・ 根拠を具体的に挙げ、自分の考えを述べることができる。（問題三）

【解答例】

一 (例) 要素だと考えています。

二 (例)

「ヒト」は、生物学的な無機質な区分けとしてのものであるのに対し、「人」は、喜怒哀楽をもった、「考える」ことのできるものとして使い分けられている。

三 (例)

わたしは最近、城島選手の阪神入団会見をスポーツニュースで見て、喜びを感じた。

わたしも部活動で野球をしている。試合で失敗をすると、不安に襲われ、自信を失うことがよくある。しかし、城島選手の「不安がなければ選手として進歩もない。」という言葉聞いて、不安から逃げるのではなくそれを受けとめ、進歩しようと思えたのだ。

*問題用紙の採点基準による。段落の有無は問わない。